

Japan Shakuhachi Professional-players Network Presents
一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)第5回定期公演

世界を旅する尺八

～尺八の〈外交史〉と現在～

2024 7.12 日 | 18:30 open
19:00 start

助成 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
[東京芸術文化創造発信助成]

独立行政法人日本芸術文化振興会
芸術文化振興基金

後援 公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

有限会社 邦楽ジャーナル

主催 一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)

ご挨拶

本日は、(一社)日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)第5回定期演奏会にご来場賜り誠に有り難うございます。

尺八は我が国固有の伝統楽器でありながら尺八の国際化は日ごとに進み、もはや尺八は世界の楽器として広がり続けています。

1994年以降、4年に一度世界各国で「World Shakuhachi Festival」が開催され、毎回数百名が集い、演奏・研究発表・ワークショップが行われてきました。来年4月にはアメリカ・テキサス州にて開催が予定され、JSPN正会員からも招聘されます。

今回の公演はJSPN目標の一つであるワールドワイドな展開として、これまでの尺八の「外交史」に焦点をあて、海外の音楽家との関わりの中で、現在の尺八の姿がどのように形成されてきたのか、その過程を探ります。その一つとして海外における尺八の現況をお伝えしたく、世界各地の愛好団体や、尺八演奏家をビデオプログラムとして紹介いたします。

助演にはタブラ奏者のU-zhaan氏、箏奏者の吉原佐知子氏、野澤佐保子氏、三絃奏者の野澤徹也氏をお迎えし、尺八と世界の繋がりを邦楽ジャーナル編集長の田中隆文氏にご執筆頂き、委嘱作品ではマーティン・リーガン氏(アメリカ在住)の世界初演作品を上演いたします。

末筆となりましたが、助成をいただきました独立行政法人日本芸術文化振興会様、後援をいただきました公益財団法人日本伝統文化振興財団様、有限会社邦楽ジャーナル様に感謝と御礼を申し上げます。

尺八の芸術性が世界中で愛好されるその源泉、新たな尺八の魅力を再発見していただければ幸いに存じます。最後までごゆっくりとお楽しみください。

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN)

プログラム

第I部

「寂滅の詩～鶴の一生に寄せる～」

田野村聡作曲(2019年)

尺八I 菅原久仁義 尺八II 素川欣也
尺八III 田辺頌山 尺八IV 芦垣皋盟
尺八V 田辺洌山 尺八VI 瀧上ラファエル広志
尺八VII 大山貴善 尺八VIII 阿部大輔

「The Universal Flute」

ヘンリー・カウエル作曲(1946年)

尺八 瀧上ラファエル広志

「密度」

一柳慧作曲(1984年)

箏I 野澤佐保子
箏II 吉原佐知子
三絃 野澤徹也
尺八 大河内淳矢

都山流本曲

「霜夜」

流祖中尾都山作曲(1905年)

尺八一部 野村峰山 設楽瞬山 山口連山
尺八二部 加藤奏山 井本蝶山
尺八三部 山崎北山 樋口景山

第II部

ビデオプログラム「世界の尺八演奏家」

Thorsten Knaud(ESS)
Lindsay Dugan(ASS)
郭文明(台湾尺八協會)
曹晨(尺八・一音無心)
Marty Regan(WSF Texas2025)
(ディレクション:小濱明人/編集:風間禪寿)

「ナマハ・シヴァーヤ」

「NAMAH SHIVAYA (Shakuhachi and Tabla)」
ナマハ・シヴァーヤ(尺八とタブラによる)
Ravi Shankar 1978年録音盤「アジアの出会い」より
タブラ U-zhaan
尺八 石垣征山

奥州傳

「鶴の巣籠」古典本曲

尺八 古屋輝夫

「Shadows, Shades, and Silhouettes」

マーティン・リーガン作曲(2024年) ※委嘱初演
尺八I 芦垣皋盟 岩田卓也 山口連山
尺八II 阿部大輔 本間豊堂 松本宏平
尺八III 素川欣也 竹井誠 田野村聡
尺八IV 石川利光 大山貴善 設楽瞬山

「寂滅の詩～鶴の一生に寄せる～」 田野村聡 作曲(2019年)

巣立つ我が子を見送った親鳥は、どんな気持ちで寂滅の時を迎えるのだろう。尺八古典曲「鶴の巢籠り」/「巢籠鈴慕」は親子の情愛をテーマにした曲と云われるが、その終盤では親鳥の生の終焉までが描かれる。それは即ち「ある鶴の一生」にフォーカスした物語であり、死にゆく親鳥に寄せるエッセイのようにも感じる。

寂滅とは、この世の煩悩を離れ涅槃の境涯に至ることである。つまりは入滅や成仏など近い意味を持つが、よりクールに「死」そのものを見つめているような響きがある。一つの存在が「生」まれて「滅」びることは、悠久の時の中では初めから無かったに等しいほど些細なことなのかもしれない。しかし、今まさに存在している命が減びゆくからこそ、その声は尊く美しい。無常の世界に咲く花の数々を、そこに吹く慈愛の風を、私は大切に想っていたい。

曲は三つの楽章から成り、原曲からサンプリングしたフレーズを随所に散りばめながら、8管の尺八による立体的な音の重なりと響き、そしてその上に立ち現れる浄土感を夢想しながら作曲した。(作曲家・初演時プログラムより)

「The Universal Flute」 ヘンリー・カウエル作曲(1946年)

アメリカの先駆的な作曲家であるヘンリー・カウエル(1897-1965)による尺八独奏曲で、西洋人が手がけた世界初の尺八曲でもある。カウエルは20世紀の音楽シーンにおいて、いち早く日本に目を向け、邦楽器の作品を手がけた作曲家の一人といえる。

《The Universal Flute》は、神如道の門下で、20世紀前半に渡米した玉田如萍(喜太郎)との出会いを契機として1946年10月12日に書かれた作品である。

57小節からなる小品ではあるが、その記譜からは「ユリ」「コミ吹き」などの奏法が散見できるほか、連符や32分音符で記された比較的速いリズムなどにおいて、五孔尺八(一尺八寸管)の持つ音列[D-F-G-A-C]を強く意識して作曲したことが窺える。幼少期から日本の文化や音楽に親しんだ作曲家ならではの、邦楽器に対する美学を感じる作品である。

なお本日の演奏では、科学研究費助成事業「日本の現代音楽形成におけるH.カウエルとの相互受容」において発見された、日本におけるヘンリー・カウエル研究の第一人者である大竹紀子氏よりご提供いただいたニューヨーク公立図書館所蔵の作曲家自筆譜を用いる。(長谷川 将山)

「密度」 一柳慧作曲(1984年)

「密度」は尺八、二面の箏、三絃による四重奏曲である。同じモチーフを、それぞれの楽器が、その楽器の特性にもとづいて、少しずつ変化したかたちで演奏する。

尺八は持続音と鋭い裝飾音などを中心に、箏は旋律と噪音の両面から、そして三絃はリズムのヴァリエーションを主体にモチーフとかかわりあう。それらの要素が、さまざまに異なった時間の密度を育みながら、同時に空間的に幾重もの層をかたちづくっていく。

曲は、点描的な旋律と、激しい噪音の要素が、持続的狀態を経て、次第にリズム主体の動きへと変化し、再び持続的狀態を介して旋律の要素が再現されて終わりを迎える。(作曲家・1990年3月5日 第53回邦楽4人の会定期演奏会プログラムより一部改訂して掲載)

都山流本曲

「霜夜」 流祖中尾都山作曲(1905年)

初代中尾都山(1876-1956)による尺八合奏曲である。1905(明治38)年12月頃に豊後別府温泉で作曲したとされ、1932(昭和7)年発行の「都山流史」366頁には次のような解説が掲載されている。

「曲は三段に分た。初段は冴え渡る霜夜の身をきる如き気分を表はし、二段は更け行く夜半にすたく虫の音の詩趣を描寫し、三段は軽快なる旋律により晚近き気分を表現す。初段は齊奏、二段は三部合奏、三段は二部合奏に作曲さる。」(原文ママ)

初代中尾都山は1915(大正4)年の7月30日から10月28日にかけて、米川琴翁夫妻とロシア演奏旅行を行なっている。海外三曲公演の先駆けとして敢行されたこの演奏旅行では、地歌箏曲のほか、初代中尾都山、米川琴翁の自作曲も多数上演されているが、「霜夜」も例外ではなく、全行程中3回(出発地の敦賀で1回、ウラジオストックで1回、ペトログラードで1回)の上演が行われている。20世紀初頭に自作曲を携えて行われた海外三曲公演は、日本音楽史上においても特筆すべきイベントといえるだけでなく、今日において尺八が世界的な広がりを見せる一つのきっかけとなった試みといえよう。

なお、初代中尾都山と米川琴翁夫妻による海外三曲公演については、福田千絵氏の論文「海外三曲公演の先駆けー初代中尾都山と米川琴翁夫妻のロシア旅行」(2006年)を参照した。(長谷川 将山)

ビデオプログラム「世界の尺八演奏家」

① European Shakuhachi Society (ESS)

代表者: Thorsten Knaub
発足年: 2006年
所在地: 2006年、ロンドンで、初めて全ヨーロッパを対象にしたESSイベントを開催。2020年、公的な事務登録国をイギリスからフランスに変更。
会員数: 196名(2024年5月時点)
活動: ESSサマースクール/オンラインワークショップ/New Yearコンサート/機関紙「BAMBOO」発行/ニュースレター発行(年2回)
Web他: shakuhachisociety.eu / info@shakuhachisociety.eu

② Australian Shakuhachi Society (ASS)

代表者: Lindsay Dugan
発足年: 1997年
所在地: オーストラリア
会員数: 約65名
活動: Australian Shakuhachi Festival(不定期/これまで26回開催)
Web他: shakuhachi.org.au / info@shakuhachi.org.au

③ 台湾尺八協會

代表者: 郭文明
発足年: 2006年
所在地: 台湾/高雄
会員数: 約200名
活動: COVID-19後、行事は休止
Web他: http://www.shaku8.org.tw/

④ 「尺八・音無心」藝術空間

代表者: 曹辰(ソウシン)
発足年: 2017年
所在地: 中国/江蘇省蘇州市
活動: 定期的に日本の尺八家を中国に招待してイベントを開催。さまざまな流派の日本の尺八家と協力し、オンライン授業の開催。日本各地の尺八家を訪問し、写真・ビデオの撮影を行い、中国や世界に尺八文化を広めている。
Web他: worldmusic.cn@gmail.com

⑤ World Shakuhachi Festival TEXAS 2025(WSF Texas 2025)

代表者: Marty Regan
開催日: 2025年4月17日~20日
開催地: アメリカ合衆国/Texas A&M 大学
Web他: wsf2025.com / wsf2025@gmail.com

「ナマハ・シヴァーヤ」

ラヴィ・シャンカール(1978年録音盤「アジアの出会い」より)

尺八とタブラによるシヴァ神に捧げる讃歌。山本邦山氏の尺八曲として特に作られ、昨夜のラーガ・シヴァランジャニに基づいている。これは短3度を用い、4度と7度を欠く。Cを主音とすれば、C D bE G A Cの音階となるが、実際にはF調で演奏されている。曲は、はじめ無拍のゆっくりとした部分ではじまる。これはシヴァ神への祈願で、悲しく、また献身の意を表している。ガットの部分では、タブラがダードラという3・3の6表紙のたーらで伴奏し、愛と感謝の気分を描いている。最後は再び、シヴァ神の恵みを求めるように、ゆっくりと悲しく演奏される。(ラヴィ・シャンカール 訳/小泉文夫)

奥州伝

「鶴の巢籠」 尺八古典本曲

鶴は日本では昔から、親の子に対する愛情が特別に深い神秘的な霊鳥と言いつてきました。例えば、雛に与える餌が無い場合に親鳥はわが身の肉を割き与えて子を養おうとする、といわれています。江戸時代の虚無僧たちは、鳴声や羽ばたきなど鶴の生態の様々を模すことによってその大きく深い愛情の境地、すなわち大慈大悲の境地を我がものにしたいと願ひこの曲を吹き伝えてきました。なを「鶴の巢籠り」という曲は数多く存在します。つまり同名異曲が多い曲なのですが、今日はその中で東北地方の伝承のものを演奏致します。幾種類もの特殊奏法が頻繁に用いられ華麗ですが、技巧に夢中になって最も大切な大慈大悲の境地の顕現を忘れてはなりません。横山先生は「わたつみ先生は僕に全ての技を捨てよ」とだけ仰言ったんだよと教えて下さいました。心して演奏致します。

世界での「尺八」に対する認識の変遷を知り、明日への覚悟を新たにするために、横山勝也著「尺八家の魅力」(1985年刊)から二か所ほど引用させて頂き、

【竹管、ただ五孔のみの尺八は、フルートやクラリネットなどに比べ「音に不自由な楽器」といえるだろう。しかしその不自由さを不自由さとして納得した上で、かえって自由に音を活かす余地が残されているという不可思議な楽器でもあるのだ。つまり演奏家だけで、限りなく多種多様な音が複雑微妙に実現する可能性を秘めた楽器なのである。その代わり演奏家が駄目ならば、これほど単調で貧しい音しか出せない楽器もない。西洋の諸楽器と比べ、演奏家の力量や経験、努力、創意工夫、生命的エネルギーなどの度合いが極めて正直に試される楽器だとも言える。武満さんの「ノベンバー・ステップス」は、それが試される極端的な一例であるような気がしてならないのであった。】

【ニューオーケストラの団員たちは、その後、リハーサルの日を重ねるたびにだんだん私たち二人のことを偏見なく認めてくれるようになっていた。これはあとで小澤さんから打ち明けられた話だが、私たちの共演の件が持ち出された時点で同フィルの組合から「なんでわざわざ高い旅費や出演料を払ってまで日本から二人も招ばなければならないのか」といったクレームがついたらしい。琵琶も尺八もほとんど知らず、おそらく原始的な民族楽器ぐらいにしか受けとめていなかったであろう彼らは、楽譜面だけをとおして「ハーブとフルートで演奏できるのではないか」とも言ったそうである。もちろん現在では大標の外国で琵琶も尺八もその存在価値が認められてきているが、十八年前(現在からでは57年前)の当時は、まだそうした考えの方がむしろ大勢を占めていたのである。組合がなかなか承知せず、したがってビザがなかなかおらず、相手を説得して納得させるまで、小澤さんはずいぶんご苦労をされたらしい。】

【「ノベンバー・ステップス」の初演を聴いたバーンスタインは「まあ、なんという強い音楽だ。人間の生命の音楽だ」と涙を流していた。(小澤征爾)】

楽器が珍しかっただけではない。音楽を支える伝統と培われた技術に裏打ちされた演奏が、強い心と楽器を超える音世界が、人の心を打ち納めさせた。私達は、現在の開拓された世界を有難く享受しつつも、世界に受け入れられた尺八楽の真骨頂とは何であったのかを常に振り返りながら更なる一歩を進めて行きたい。(古屋輝夫)

「Shadows, Shades, and Silhouettes」

マーティン・リーガン作曲(2024年)※委嘱初演

私がまだ5歳にも満たない幼い頃、母が童謡「僕と僕の影」を歌いながら、自分の影に夢中になっていたのを懐かしく思い出す。ある日、自分の影から逃げ出そうとしたこともあったが、結局、どこに行っても影がついてくることに気づいて諦めた。それから20年後、日本文化に興味を持つようになった私は、暗闇と人間の関係を考察する日本の美学についてのエッセイ、谷崎潤一郎の「陰影礼讃」(1933年)を発見した。この「Shadows, Shades, and Silhouettes」を作曲するにあたり、次のような問いを考え始めた。影に相当する音楽は何だろうか?

この作品を通しての指針は、一拍ほど後ろに意図的にずらして似たような素材(つまり模倣的対位法)を使用することによる「影付け」の一つであり、その結果、一種の自然な音響残響やエコーのような効果が得られる。この作品で使われる主旋律線は非常にシンプルだが、様々なテクスチャー、テンポ、転調を通して、その可能性を探ろうと試みた。

谷崎潤一郎の「陰影礼讃」に大雑把に影響を受けた作品というところ、どこか地味で渋い印象を受けると思われるかもしれないが、この作品は意外にも、最近作曲した作品の中で最も熱狂的で迫力のある作品の一つである。大規模なA-A-B-A形式で、「shades and silhouettes / 陰影とシルエット」、つまり厳しい対比と安息の瞬間を提供する緩やかな中間部を含んでいる。しかし、終結部を迎え、全体的な印象は世間知らずの無邪気な少年が必死に逃げ回り、自分の影から虚しく逃れようとする姿である。

【世界の尺八】

月刊誌「邦楽ジャーナル」で50回にわたり連載してきた「世界の尺八」がこの7月号で終了した。1回につき2人を紹介していたので、100人を紹介したことになる。

この企画は新型コロナウイルス蔓延真っ只中の2020年5月号から始まった(ちなみにその号の特集は「コロナに負けない!」)。コロナではないが、尺八が世界に広がっていることを誌面で実感してほしいと考えた。世界の尺八愛好家を紹介するコーナーではない。演奏家や教授者として名をなしている人を紹介するものだ。もはや、尺八は時代的にその次元まで来ている。

真っ先に頭に浮かんだのはヨーロッパと中国だった。その地域では10年くらい前から若者が尺八をし始めているという情報が入っていた。実際、基本的に4年に1回行われている「世界尺八フェスティバル」(WSF)の2018年の開催地はロンドンであり、その閉会式で決まった次回2022年の開催地は中国・潮州だった。

「世界の尺八」を連載するには各地域に著名な尺八奏者を紹介してもらう協力者が必要だ。ヨーロッパのほうはヨーロッパ尺八協会を立ち上げたキク・デイに、中国のほうは、前半を潮州WSF実行委員長の李秋楽に、後半を蘇州に尺八の販売と教室の店を構える曹晨にお願いしてスタートを切った。

第1回の人選は、ヨーロッパはオランダのエレーヌ聖優コジョと中国は湖北省の蔡鴻文になった。

台湾出身の蔡は武漢音楽学院で尺八の教鞭をとる(第1回がコロナで話題の武漢になったのは奇遇だ)。中国には11の音楽学院があるといいその一つに尺八科ができたのだ。蔡は潮州WSF開催に向けて「文化の異なる人々が尺八文化を吸収して自分なりのものに変えていくところを今の中国人に見せたい」と語っている。つまり、日本の尺八の古典・現代曲を学び、さらに中国ならではの尺八作品を自分たちの手で作っていくというものだ。この思いは蔡に続く奏者も一様に語っていた。

2012年に京都WSFが行われたとき、中国奏者が持ってきたパンフレットには中・日・英語で「中国から日本に渡った尺八は千年の時を経て今、中国に返り咲く」的なことが書かれてあった。素晴らしいことだ。だが、今の尺八を掲げて「これは中国から来た楽器である」という人には、私はその間違いをできるだけ指摘している。

中国から細身の6孔尺八が渡来して雅楽で使われた。正倉院尺八あるいは古代尺八と言われるものだ。しかし、それは絶え、一節切尺八から今の普及尺八にいたったのは、紛れもなく日本のオリジナルだ。

文化大革命を経た中国では今、唐の文化を取り戻したいという。尺八はまさにそこにハマっている。それならば、古代尺八を復活させて、その6孔で中国の新しい曲を作るというのはどうか、と、李親子に提言したことがある。

2022年の潮州WSFは結局コロナで実現できなかったが、動画コンクールをすることでその痕跡を残すことができた。世界中から集まった延べ100人の演奏はネットで視聴することができた。

さて、ここから中国における尺八の歴史を見てみたい。邦星堂の大橋鯛山から聞いた話も織り交ぜて述べていく。

【台湾】

大陸より台湾が先のような。日本統治時代に尺八は台湾に入っただろうし、川瀬順輔、山口四郎、吉田晴風、中尾都山ほか台湾で演奏したという記録もある。大橋は、戦前に吉田晴風に学んだ林吟風が台湾における尺八の始まりとする。愛好者を広めた演奏家は村岡実だ。1970~80年代に20数回公演したという。その影響からか、台湾では今でも7孔尺八で演歌や歌謡曲を楽しむ人が圧倒的に多い。80年代の経済成長も尺八人口を増やしていった大きな要因だ。21世紀に入り愛好者数は3桁になった。その頃から日本の都山、琴古、古典本曲系の演奏家が台湾入りし、演奏・教授活動が活発化して2006年に台湾尺八協会が設立された。

【中国】

「鎌倉時代、法燈国師が杭州の靈洞護国任王寺で張参から尺八を学び、1254年に4人の居士を伴って帰国、和歌山県の興国寺を拠点に尺八を広めた」という伝説を頼りに、1999年、10人程度の日本人尺八訪問団が中国の杭州(浙江省)を訪れた。ここには尺八発祥の地として立派な石碑が建てられている。訪問団はここに尺八を里帰りさせようとサーズの起きた2003年まで普及活動を展開する。それが火種となって少しずつ愛好者が増えていった。洞簫奏者がよく鳴る尺八に持ち替えていったという。

グループの中に神崎憲と塚本平八郎(竹仙)がいた。中国語のできる神崎は上海、蘇州、洛陽、広州、大連、北京、山東と教授活動を広げて尺八を広めていったが、2015年に亡くなる。中国の尺八はこの人無しでは語れない。塚本はほぼ20年間中国に在住し、その教室はたくさんの弟子を抱えるまでに発展した。

中国では日本のアニメ「NARUTO—ナルト—」が2010年頃配信され、ブームが起きる。その音楽はき乃はちが尺八で吹いている。これは何?ということと古典本曲とはまた別のところで若者に火がついた。

2018年に公開された中国のドキュメント映画「一聲一世」は、き乃はちの「宙へ」を聞いて尺八に目覚めた若者が塩ビ管尺八を購入して練習を重ね、杭州から日本を訪ねる旅に出る物語だ。半分以上日本ロケで、日本の演奏家や製管師が登場して尺八の魅力を語り、演奏している。若者は最後にき乃はちに出会うのだが、ここでは小湊昭尚も重要な役割を担って登場する。

この二人は尺八を愛する中国の若者の間では神祕的存在で、尺八講習会もコロナまでは各地で行った。ちなみに私が映画「一聲一世」を観たのは李親子から潮州に招待され、その帰りの飛行機の中だった。驚いたことに多くの中国人がこの映像を機内モニターで観ていた。日本でこんなこと、あり得ない。

日本の尺八は中古を含め、今や中国が市場になっている。プロ奏者も製管師も多く輩出し、愛好人口はもっと伸びていくだろう。そして、日本の愛好人口を抜く日が来ると思う。

【アメリカ】

尺八の海外における最も新しい世界として中国を紹介したが、では古い世界はどこだろう。アメリカだ。山本邦山は1967年にニューポート・ジャズフェスに出演しているし、横山勝也は同年、小澤征爾指揮ニューヨークフィルと武満徹の「ノヴェンバー・ステップス」を鶴田錦史と協演している。それは尺八を世界に知らしめたものであって、愛好者を増やしたわけではない。

京都の初代倉橋容堂の下で尺八を学んだニューヨーク(NY)のラリー・セルディンの功績が大きい。「如月」の名を取ったのは1975年で、以後、NYを拠点に全米を回って愛好者を増やしていった。それまでに日本からは5世荒木古童や古賀将之といったプロが渡米して教室を開いており、その力も大きい。

NYからそれほど遠くない位置にあるウェズリアン大学では1960年代から尺八講座が設けられ、講師として5世荒木古童や3世川瀬順輔、山口五郎ほかが数年交代で赴任した。山口が赴任したのは山本、横山が名を馳せた1967年で、その年は今にして思うと日米を尺八で結んだエポックと言えるかもしれない。

山口はそれから10年後の1977年、東京藝大に新設された尺八科の講師となるが、同年、アメリカの惑星探査機ボイジャー2号に搭載するレコードに『巢鶴鈴慕』を収録している。日本の音楽の代表は「さくらさくら」ではなく、尺八なのだ。

ハワイではハワイ大学が尺八を学べるところだが、70年代初頭に尺八教室を開いたトーマス岡野の力が大きい。本願寺で住職を務めながら尺八を無料で教えた。ハワイ大学で学んでいたジョン海山ネプチューンは岡野の紹介で三好荒山に師事し、日本で活躍した。

このようにアメリカでの尺八は70年初頭には知られるところとなっていた。WSFの立役者であるクリストファー遙盟は1972年、デヴィッド勸輔ウィラーは77年に留学生として来日している。尺八で活躍するのはその後のこと。(ちなみにこの二人は連載「世界の尺八(北アメリカ)」の人選協力者となってくれた)

WSFがアメリカ・ボルダーで開かれたのは1998年だ。コロラド大学を拠点に歴史に残る大規模フェスとなったが、これは川瀬の弟子のデヴィッドがそのために2年前からボルダーに移り住んで、地元のコリー・スペリーと共に準備し、成功に導いたものだった。二人はボルダーで今後も一流奏者から学べるシステムを作ろうと、翌99年から「ロッキーマサマーキャンプ」を創設した。

アメリカにおけるWSFの2回目は2004年にNY大学で行われた。これのトップは先に紹介したラニー如月セルディンだったが彼は2017年に亡くなる。そして3回目が来年25年4月にテキサスのA&M大学を拠点に行われる。トップは今回のコンサートで新曲を発表するマーティン・リーガンだ。

クリストファーとデヴィッドはWSFの第1回からすべてに関わり、尺八で世界を繋ぐキーマンとなっている。

【オーストラリア】

そのクリストファーと同年で出身地も同じテキサスというライリー・リーは2008年のシドニーWSFを成功させた人。

ホノルルに移住してハワイ大学では修士号を取得。日本で鬼太鼓座の創設メンバーとなり太鼓を叩いたが、1978年にホノルルに戻った。86年にオーストラリアに渡るまで竹保流と横山勝也に尺八を学ぶ。シドニー大学では博士号をとりながら演奏・教授活動を続け、たくさんのCDをリリースした。97年にオーストラリア尺八協会を設立し、同年に「Taiko」を結成するなど、尺八の普及に関してはこの人の独壇場と言えそうな気配だ。(連載「世界の尺八(オーストラリア)」の人選協力者になってもらった)

【ヨーロッパ】

ヨーロッパにおける尺八はアメリカ同様、半世紀前から知られていたはずだ。クラシック音楽の本拠地なわけで横山勝也の『ノヴェンバー・ステップス』は好まれた。実際、横山は数十カ国で数十回演奏している。横山の弟子の岩本由和はロンドンに移住して古典本曲や現代音楽を吹き、演奏家としてその名を知られた。しかし、尺八愛好者の普及という点から見ると、それほど大きな力にはなっていない。

立役者はデンマークのキク・デイとドイツのジム・フランクリンだ。二人は2018年のロンドンWSFを成功させた。キクが女性初の実行委員長となってジムがそれをサポートした。

キクは日本で1990年から10年間、奥田敦也に師事した。そしてロンドン大学で博士号を取得し、そのまま研究員を続ける。ジムはオーストラリア出身で89年からライリー・リーに師事した。96年には国際尺八研修館の師範となり、翌97年にシドニー大学で博士号を取得した。ドイツに移住したのは2004年だ。

二人は2006年にヨーロッパ尺八協会(ESS)を創設し、ジムは4年間、キクは10年間委員長を務める。二人とも古典本曲と現代音楽を得意とし、演奏活動を展開しているが、ジムは多くの弟子を育てた。そして組織は細分化していく。

ESSでは「尺八サマースクール」を各国持ち回りで行うようになったが、それとは別にチェコ・ブラハで2008年から毎年、比較的大きめの尺八フェスティバルを開催している。2012年の京都WSFの次は16年にブラハで行われる予定だったが、それができなくなり、2年遅れで同じヨーロッパ圏のロンドンになったという経緯がある。

他にもフランスやスペインほか各国で個々のグループが日本から演奏家を呼んで尺八スクールを開催している。フランスの音楽院ではラヴ

ロ水山が尺八を教えている。東ヨーロッパではロシアのモスクワ音楽院に尺八科がある。ロシアにもウクライナにも尺八を嗜み、生業としている人がいることは「世界の尺八」を通して知った。

【未来予想図】

WSFは1994年の岡山県美星町から始まった。横山勝也は1988年、尺八の主体性と国際性を願い、国際尺八研修館を美星町に設立した。国籍や性差や流派を超えたWSFは参加者同士の一体感を生み、個々人に大きな喜びと感動を与えた。その体験が、世界に波及していった。

そうして30年。世はコロナを経てネットの世界に変貌し、世界中の人は居ながらにして誰のレッスンでも受けられるようになった。YouTubeで独学する人も増えた。尺八の演奏技術は格段に進歩し、それは、尺八を知らない多くの人の理解を促していく。柔道のようにもっと世界に広がれば良い。日本も逆輸入で愛好人口的に復活するかもしれない。ただし、従来の流派単位で括れるような仕組みにはならないだろう。

連載「世界の尺八」の取材では、一様に尺八の音色の美しさや倍音操作を含めた表現力の無限の可能性を、そして、尺八のミステリアスな歴史と深い精神性に対する畏敬の念を語っていた。ある人は、尺八を手にしたことは神の啓示だとまで言う。世界中で人生の伴侶となっている尺八。100年前の人に尺八が今、こんなことになっていると伝えたい。先人に感謝し、日本を誇りたい。

JSPNは日本の尺八界の流派を超えて粋を集めた集団だ。その技術と精神において世界の見本となるような水準を維持し、それをもっと世界に発信して欲しいと思う。(敬称略)

●邦楽ジャーナル連載「世界の尺八」に掲載された100人の演奏家

(北アメリカ)

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 1. ラルフ・サミュエルソン | 2. ジェームス如案シュレファ | 3. レイチェル・ディッチ | |
| 4. デヴィッド勸輔ウィラー | 5. トーマス岡野 | 6. クリストファー遙盟 | 7. エリオット勸心カレン |
| 8. ビル・山田シュルツ | 9. マーサ裕花ファブリック | 10. ザック・ジンガー | 11. 六世荒木古童 |
| 12. エリザベス・ブラウン | 13. コリー・スペリー | 14. アルスヴィン龍禪ラモス | 15. 古賀将之 |
| 16. スティーブン泰然カサノ | 17. ロバート・ハー | 18. コーネリアス深禅ブーツ | 19. マルコ・リーニン・ハード |
| 20. ネット・ローゼンバーク | 21. レアリー・テラウ | 22. マーティン・リーガン | |

(オーストラリア)

- | | | | |
|------------------|----------------|-----------------|---------------------|
| 1. アン・ミッシェル・ノーマン | 2. ブライアン太楽リッチー | 3. リンジー・ドゥガン | |
| 4. デヴィッド・ブラウン | 5. カール・ラサス | 6. ライリー・リー | 7. フロンウィン・カーク・バトリック |
| 8. ロックラン・スキップワース | 9. エイドリアン・シェリフ | 10. デヴィッド・ジョブスト | |

(ヨーロッパ)

- | | | | |
|---------------------|----------------------|-------------------|------------------|
| 1. エレーヌ聖優コジョ | 2. ウルトラ普友美シュミディガー | 3. ジム・フランクリン | 4. ラヴロ水山 |
| 5. マイケル・ヴラフ | 6. クライヴ・ベル | 7. ティロ・ブアダハ | 8. マレック・貴明・マトヴィヤ |
| 9. デイト・マルー・風ヘリガー | 10. ヴェロニク・ピーロン | 11. リンデル・儘置(ケンナル) | 12. キク・デイ |
| 13. セルゲイ・マキシメンコ | 14. アンドレイ・ジーリン | 15. フィリップ・水明・ホラン | |
| 16. ウラジミール・雲龍・ラズトキン | 17. セザール・ヴィアナ | 18. ジョルジョ・ピンナ | |
| 19. ファキ・カデモール | 20. トーステン・無穴笛・オーラフソン | | |
| 21. アントニオ・山・オリアス | 22. ホセ・西山・バルガス | 23. オットー・エスケリネン | 24. ロドリゴ・ロドリゲス |
| 25. ラモン・ヒューメット | 26. オラン・オ・クルティ | 27. ハーヴスト・アロ | 28. シャバカ・ハチングス |

(中国)

- | | | | | | | | |
|---------|-------------|--------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| 1. 蔡鴻文 | 2. 王錦徳(山城) | 3. 楊博文 | 4. 易佳林 | 5. 陳佩筠 | 6. 張聰 | 7. 劉暢(逸竹) | |
| 8. 李志文 | 9. 竹狂狂書(竹風) | 10. 白石 | 11. 李秋乘 | 12. 李閔海 | 13. 姚伯漸 | 14. 刁品健 | |
| 15. 徐宇豪 | 16. 楊澤 | 17. 李泳 | 18. 李子桓 | 19. 劉哲 | 20. 呂保哲 | 21. 曹晨 | 22. 胡正涛 |
| 23. 岳云鶴 | 24. 張浩 | 25. 黄海 | 26. 劉万宇 | 27. 曾秋樵 | | | |

(中南米)

- | | | |
|-----------------------|--------------------------|----------------------|
| 1. ルイス・ロベルト・レブレ | 2. ダニエル・トミック・梅京 | 3. エンリケ・エリヤス・シュルツ・パハ |
| 4. ルイジ・アントニオ・イルランディーニ | 5. アレハンドロ・ロベス・バルベラ | 6. サンティアゴ・ロイス・ベレス |
| 7. グレゴリオ・フォンザーキ | 8. ファン・マヌエル・クラロ | 9. プルー・デ・カストロ・アドマン |
| 10. ラファエル・クエルト | 11. ジョナサン・エドガー・ベラスケス・ロメロ | 12. 測上ラファエル・広志 |

(中近東)

- | |
|-----------|
| 1. カイル・調盟 |
|-----------|

■執筆プロフィール



田中 隆文 TAKAFUMI TANAKA

[邦楽ジャーナル編集長/特別会員]

1987年月刊誌「邦楽ジャーナル」を創刊。2006～10年NYで「Hogaku: New Sounds of Japan」プロデュース。12年5月に京都で、18年8月にロンドンで、21年11月に和歌山で、22年8月に蘇州(動画)で国際尺八コンクール主催。

作曲家プロフィール



マーティン・リーガン MARTY REGAN (作曲家)

「西洋音楽」はもとより、現在までに90曲を超える邦楽作品を作曲、邦楽作品のCDを7枚リリース、現代邦楽演奏主要グループの一つであるオーラジに所属、2002年文化庁舞台芸術創作奨励国立劇場作曲コンクールにて、尺八と二十絃等のための「東雲の詩」(2001)で入賞、2006年ハワイ大学作曲科博士課程修了。2008年邦楽器のための作曲法について書かれた唯一の研究書である、三木稔著「日本音楽法」(音楽之友社)の英語版翻訳を出版。

2013年テキサスセンター・アジアソサエティにて、ヒューストン・グランドオペラによる委嘱作品、室内オペラ「メモリー・ストーン」初演。2015年ヘレン・ウーリッツァー財団アーティスト・イン・レジデンス助成取得、イギリス、ケンブリッジ大学のクエアホール客員研究員の奨学金取得。現在は、アメリカにあるテキサスA&M大学の教授として、作曲と日本芸能を中心に後進の指導にあたる。2022-23年フルブライト特別教授として、洗足学園音楽大学の現代邦楽研究所、及び京都市立芸術大学の日本伝統音楽研究センターに所属。ワールド尺八フェスティバルテキサス2025年の実行委員長。URL: martyregan.com

賛助出演プロフィール



U-zhaan

オンド・チャタルジー、ザキール・フセインの両氏からインドの打楽器「タブラ」を師事。2000年よりASA-CHANG&巡礼に加入し、「花」「影の無いヒト」など4枚のアルバムに参加、2010年に同ユニットを脱退後、U-zhaan × rei harakamiとして「川越ランデヴー」をリリース。2014年にはソロ名義のアルバム「Tabla Rock Mountain」を発表した。2021年にU-zhaan×環ROY×鎮座DOPENESSによるアルバム「たのしみ」、2022年には蓮沼執太&ユザンとしてアルバム「Good News」をリリースしている。



吉原佐知子 SACHIKO YOSHIHARA

東京藝術大学邦楽科生田流箏曲専攻卒業。NHK邦楽技能者育成会卒業。現代邦楽研究所第1期卒業。同所にてビクター邦楽技能者育英賞受賞。全国高校生邦楽コンクール準優賞。賢順記念全国箏曲コンクール銅賞、奨励賞受賞。NHKオーディション合格。現在、洗足学園音楽大学現代邦楽コース非常勤講師、弘前大学非常勤講師。現代邦楽研究所講師。東京都立大学等々力中学高等学校、川村学園中学高等学校箏曲部講師。国内、海外でコンサート、邦楽指導、邦楽ワークショップを展開。桜葉美大会大師範、荒川三曲協会理事、日本三曲協会、生田流協会、森の会、あいわいの会会員。



野澤佐保子 SAHOKO NOZAWA

幼少より箏に親しむ。これまでに現代奏法を福永千恵子氏に、古典地歌箏曲を芦垣美穂氏に師事。NHK邦楽技能者育成会、現代邦楽研究所にて研鑽を積み、2000年に賢順記念全国箏曲コンクールにて第一位賢順賞を受賞、他受賞多数。NHK邦楽オーディション合格(箏、十七絃等)これまでに三回のソロリサイタルを行うほか、毎年企画演奏会を開催し13回を数える。「やさしい箏入門」(ドレミ楽譜出版社刊)執筆。洗足学園音楽大学非常勤講師、現代邦楽研究所講師、桐生大学附属中学校非常勤講師、清瀬市立第四中学校箏曲部講師。NHK邦楽技能者育成会同窓会合奏現代邦楽「考」団員。東久留米市文化協会理事、東久留米邦楽連盟会長、名古屋大学卒業。



野澤徹也 TETSUYA NOZAWA

洗足学園音楽大学と現代邦楽研究所の三味線講師を務める。CDは「三味線独奏曲集」(TYサポート受賞作品)の他19枚発表している。2021年にNHKFM「邦楽のひととき」にて野澤徹也特集が放送された。2022年に日本現代音楽協会主催でソロリサイタルが全曲初演で開催された。2024年にはBSテレビ東京「徳光和夫の名曲につぼん」に出演。受賞歴はCD「柗屋正邦作品集」が令和元年度第74回文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞、など他多数受賞。野澤徹也三味線合奏団主宰。

出演者プロフィール(JSPN正会員)



芦垣 泉盟 KOMEI ASHIGAKI

10歳より琴古流尺八を田中康盟師に師事/東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八(琴古流)専攻卒業、同大学院音楽研究科修了/在学中、人間国宝山口五郎師に師事/NHK邦楽技能者育成会第45期卒業/NHK邦楽オーディション合格、日本伝統文化振興財団主催「邦楽技能者オーディション」合格、ビクターよりオリジナルCD「琴古流尺八・芦垣泉盟」発売中/国立劇場主催公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」「掛合の美」漱石と邦楽/出演/平成26年度文化庁芸術祭オープニング「伝統芸能の交流」出演、皇太子ご夫妻御前演奏/文化庁芸術祭主催公演「アジア・太平洋地域の芸能」出演(於 国立劇場おきなわ)NHK-FM「邦楽のひととき」出演多数/海外演奏、CD録音多数参加/現在、朝日カルチャー横浜校・読売カルチャー川口校各講師/(公社)日本三曲協会、琴古流協会、各会員。竹盟社評議員、泉盟会主宰



阿部 大輔 DAISUKE ABE

神奈川県横浜市出身/横浜国立大学教育人間科学部地球環境課程卒業、NHK邦楽技能者育成会第51期修了/尺八を眞玉和司に、声楽を成田博之に師事/尺八では古典本曲や現代の音楽を主に、声楽ではドイツ、イタリアのルネサンス、バロック期の音楽を中心に演奏している/和のオーケストラむつつのを、邦楽創造集団オーラジ、エクス・ノーヴォ室内合唱団、Vocal Consort Tokyo、SESTETTO VOCALE等に所属/2017年より声楽家と古楽器奏者による音楽団体incontroを立ち上げ、古楽の普及に努めている



石川 利光 TOSHIMITSU ISHIKAWA

琴古流尺八、古典本曲を横山勝也、古曲を五世荒木古童に師事/NHK邦楽技能者育成会第37期首席修了/NHK邦楽オーディション合格/リサイタルの成果により文化庁芸術祭音楽部門新人賞、同優秀賞(2度)、青山音楽賞バロックザール賞を受賞/国際交流基金の派遣でインド、アメリカ、スイス、オーストリア、ポーランド、ベルギー、オーストラリア、シンガポール、ドイツ、リトアニア、ロシア、イギリスの各国にて公演、CD制作多数/現在は関西を中心に録音、放送及び積極的なコンサート活動を行っている/大阪邦楽ソリスト代表/石の会主宰、国際尺八研修館常任講師、青山音楽賞選考委員



石垣 征山 SEIZAN ISHIGAKI

幼少のころより父・石垣征山に師事し、その後山本邦山(人間国宝)に師事/東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。東京邦楽コンクール、くまもと全国邦楽コンクール、都山流尺八楽会本曲コンクールなどで最優秀賞を受賞/孤高な存在感、魂を揺さぶる圧倒的な演奏力、幅広い音楽性に裏付けられた繊細な表現力は高い評価を受けている/映画のエンディングテーマや伊勢志摩サミットの公式PR動画テーマ曲提供など、作曲活動も行っている



井本 蝶山 CHOZAN IMOTO

兵庫県丹波市出身。10歳より都山流尺八を永廣孝山師に師事、15歳で師範試験に史上最年少で登第。2008年オーストラリアで行われた国際尺八フェスティバルの尺八世界大会優勝/丹波の森国際音楽祭「シェーベルティアーデたんば」のシンボルアーティストとして一連のコンサート出演/NHK「うたコン」や中国の国民的音楽番組「国楽大典」など、メディア演奏多数/国内外で演奏活動を行う他、教授活動にも力を入れている/東京芸術大学付属高校、同大学音楽学部邦楽科都山流尺八専攻卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了/学部卒業時には皇居桃華楽堂にて御前演奏を務める/都山流尺八盟友会特任講師、ヒューマンアカデミー日本伝統文化講座講師、カレッジ神戸尺八講師、日本三曲協会会員、南禅寺独秀流南禅協会音楽講師



岩田 卓也 TAKUYA IWATA

東京芸術大学中退。2002年NHK邦楽オーディション合格/2004年、長谷校校記念全国邦楽コンクールにて最年少で最優秀賞と文部科学大臣奨励賞を受賞。地元・常滑市より表彰される/2009年第6回東京邦楽コンクール、優勝。2012年国際尺八コンクール(京都)優勝、世界一のタイトルを獲得/コンジュンコやクリスチャン・ディオールとのショーで演奏/2010年から2016年坂本冬美ステージメンバー/テレビ出演は「紅白歌合戦」芸能華舞台(NHK)など/海外公演ではアメリカ、ニューヨークでの世界芸術見本市に日本代表として参加/シビウ国際舞台芸術祭スペシャルサンクス特別招待公演参加/2010年にはNHK日本賞授賞式にて皇太子殿下の前で演奏を務めた/自身のリーダーユニット:岩田卓也@MAKI 残歌(岩田卓也、伊藤志宏、ファルコン)型にはまらない独特な演奏と気持ちを揺さぶる感情表現を武器に尺八の新たな可能性を切り開いている



大河内 淳矢 JUNYA OKOCHI

愛知県西尾市吉良町出身/桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業/NHK邦楽技能者育成会55期卒業/自作曲を中心に演奏活動を行うほか、オーケストラ、演劇、ダンス、書道、水墨画、語りなど、ジャンルを越えたアーティストとの共演を積極的に行う/海外公演を多数成功させ、2012年に外務省在外公館長表彰を授けられる/国内にて開催された国際音楽祭にも多数出演/イベントや楽曲プロデュースも手がける/2014年に初リサイタル「輪の響き」を開催/これまでにオリジナルCDを3枚リリース/2017年よりオーケストラ奏者としても活動している。/洗足学園音楽大学非常勤講師、現代邦楽研究所講師



大山 貴善 KIZEN OYAMA

神奈川県出身/琴古流尺八を松山龍盟師に師事/琴古流尺八、普及本曲、根柢派錦流を三橋貴風師に師事/父、大山妙善の影響で臨濟宗大本山国泰寺 妙善会に残る古典本曲を伝承/NHK邦楽技能者育成会第55期修了/NHK邦楽オーディション合格/平成31年度文化庁新進芸術家国内研修修了/出雲大社 平成の大遷宮奉祝行事にて奉納演奏を務めるなど寺社仏閣での奉納演奏も多く、海外公演も多数行っている/様々な古典本曲を学ぶことで古典尺八音楽に対して多面的な視点を持ち、それを自らの音楽性へと反映、古典尺八を重視しながらも新たな尺八の表現を模索し続けている/琴古流尺八貴風会会員、公益社団法人日本三曲協会会員、琴古流協会会員、大本山妙善会会員



小濱 明人 AKIHITO OBAMA

尺八および古典本曲(横山勝也伝)を石川利光に師事/民謡尺八を米谷智に師事/NHK邦楽技能者育成会終了/尺八新人王決定戦優勝/ACCの助成によりNYへ留学/リサイタルを連続開催/国立劇場主催「明日をになう」新進の舞踊・邦楽鑑賞会出演/「尺八協奏曲・アンサンブル出版」(藤倉大作曲)をアンサンブル・ノマドと世界初演/ワールド尺八フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ他、多くの国際音楽祭に招待参加/海外公演は37カ国に及ぶ/本曲三部作「寂静光韻」[LOTUS POSITION with山下洋輔]他計10枚のアルバムを発表/書籍「伝統芸能の教科書」(共著)を刊行/邦楽ジャーナル誌に「尺八の聖地」を連載(2023年)/「LOTUS POSITION」[The Shakuhachi 5]「伊藤多喜雄TAKIO BAND」他多くのグループに参加/学習院大学非常勤講師。



加藤 奏山 SOZAN KATO

平成元年2月6日生まれ、愛知県名古屋出身、名古屋在住/加藤桑山、廣岡俊山両名に師事/名古屋音楽大学 大学院 音楽研究科修了/平成27、30年度都山流本曲全国コンクールにおいて金賞、文部科学大臣賞、産経新聞社賞受賞/平成28年度 オーストラリア・ウィーン国際音楽祭に出演。プラムホールにて演/「NHKFM」邦楽百番「邦楽のひととき」(出演)、CBCラジオ「つボイノリオの聞けば聞くほど」(出演、編曲)、CBCテレビ特番「伊勢神宮 命あふるる神々の森」(演奏)/年間150以上のステージに出演し、TV、ラジオ向けのサウンドトラック等に多数参加/和楽器による新たな音楽の作曲、地元愛知県を中心に、様々な公演等のプロデュースにも携わっている



設楽 瞬山 SHUNZAN SHITARA

都山流尺八を川村泰山師に師事/NHK邦楽技能者育成会卒業/NHK邦楽オーディション合格/都山流本曲コンクール全国大会、金賞ならび文部科学大臣奨励賞受賞/演奏活動の他、数多くの演劇や語りの音楽も手がける/現在、都山流大師範、講師補、検定委員補/泰山会会員、山本邦山尺八合奏団員、むつのをメンバー/アンサンブルアンビエンスアーティスト/物語シアターメンバー/日本三曲協会会員



菅原 久仁義 KUNIYOSHI SUGAWARA

都山流、琴古流を学び、その後横山勝也師に師事/77年全日本三曲コンクール第1位入賞/80年「伝統楽器による現代演奏コンクール」にて独奏部門及び合奏部門ともに第2位入賞/95年CD「雨月譜」を世界発売。(以降CD8枚をリリース)/流派を超えた教則本、教則ビデオ、教則DVDを制作し普及に注力/また演奏活動に於いてもリサイタルや海外演奏を多数行っている/「菅原邦楽研究室」及び「仁の会」主宰、東京、浜松、札幌にて教授/北海道大学非常勤講師



素川 欣也 KINYA SOGAWA

尺八演奏を横山勝也、尺八製管を玉井竹仙に師事/日本音楽集団(1981~1990)及び、オーケストラアジア(1997~2017)の演奏活動に参加/尺八古典本曲を軸とした国内外での演奏活動の他、スタジオミュージシャンとして、演歌、ゲーム音楽、映画音楽、CM音楽、等さまざまな分野で活躍している



竹井 誠 MAKOTO TAKEI

1956年東京生まれ/埼玉大学理工学部数学科卒/在学中より日本音楽集団尺八奏者/入団後、篠笛、能管に取り組み、1980年代後半より長唄囃子方として活動/数少ない、尺八、笛兼任奏者として、国内外の多数のコンサート、ライブ、スタジオレコーディングをこなす/2010年より隔年で東京芸術大学で現代邦楽の笛の指導に当たる/一方で20代より独学でJAZZ、Classic of the Flute、Piccolo、Bass Flute等の研鑽に励み、邦楽演奏家ならではの演奏法を追求して、ライブ、セッションのステージに立つ/現在、日本音楽集団団員、JSPN正会員、現代邦楽「考」団員、三橋美香子と蒙古班メンバー



田辺 頌山 SHOIZAN TANABE

幼少の頃から父、恵山に手ほどきを受け、早稲田大学入学と同時に初代山本邦山(人間国宝)に師事/NHK邦楽技能者育成会第27期卒業、NHKオーディションに合格/ローマ法皇「ヨハネバロロII世」謁見演奏、カーネギーホール公演をはじめ海外での演奏も多く、様々なジャンルの国内、海外の演奏家と共演し好評を博す/また、中学校教科書指導書「中学音楽 音楽のおくりもの(教育出版)」の作成に協力/ステージ、レコーディング、指導活動に つとめ、尺八本来の持ち味を大切に、ジャンルにとられない幅広い活動を行なっている/長谷校校記念第1回全国邦楽コンクール(1993)で最優秀賞を受賞/CD「静かなる時」[Voyage]「Den3」をリリース/都山流尺八会竹琳軒大師範 田辺頌山ホームページ <http://www.shoizan.net/>



田辺 洌山 RETSUZAN TANABE

岡山市出身、中央大学哲学科卒、NHK邦楽技能者育成会卒業/故初代山本邦山師(人間国宝)に師事/リサイタル・海外公演・参加アルバムも多し「色彩の間」[風姿有韻]日本の「音遊び...」[閑花風]「西洋の弦vs東洋の管」[静けさの、向こうが]など自主公演での公演も多く、CD-BOX「涯」尺八山本邦山<音楽の軌跡>ではプロデューサーとして平成29年度文化庁芸術家大賞受賞/現在東京を中心に企画制作および舞台・放送・録音・指導などの活動を行っている/(公財)都山流尺八会・(公社)日本三曲協会・都山流尺八邦山会所属、和傳社officeプロデューサー



田野村 聡 SOH TANOMURA

1982年岡山県倉敷生まれ、岡山市出身、島根大学総合理工学部卒、ギター、電子音楽制作、DJ等の音楽歴と並行して18歳より尺八を始め、笈秀月、田辺列山、田辺頌山、菅原久仁義の各氏に師事、NHK邦楽技能者育成会第51期修了。第17回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞、日本音楽集団常任理事。国内外での演奏活動の他、各種メディア出演やレコーディング参加、アーティストサポート等多数。2020東京パラリンピック開会式出演、独習による作曲も手がけ、鋭い楽曲解釈と幅広い音楽経験に裏打ちされた感性・表現力を武器に多方面で活躍。



野村 峰山 HOZAN NOMURA

父の手ほどきで尺八を学び、のち人間国宝・初代山本邦山に師事/高校在学中に都山流尺八本曲コンクール全国大会にて金賞受賞/NHK邦楽技能者育成会卒業/「野村峰山と竹の新撰組」コンサートの開催/NHKTV-FM放送や、国際尺八フェスティバルに招待演奏、オーケストラとの共演「ノヴェンバー・ステップス」など国内外で活躍/令和2年度芸術選奨文部科学大臣賞、芸術祭レコード部門大賞、都山賞など多数受賞/元東京芸術大学非常勤講師/愛知県立芸術大学非常勤講師、竹琳軒大師範、都山流参事、都山流尺八講師、現代邦楽作曲家連盟、日本三曲協会会員、令和4年重要無形文化財(各個認定)保持者、令和6年紫綬褒章受章。



樋口 景山 KEIZAN HIGUCHI

茨城県守谷市出身/田辺頌山師に師事/都山流尺八会会師範試験首席登第・開校/東京芸術大学にて、川村泰山師、二代山本邦山師、藤原道山師に師事/東京芸術大学修士課程 音楽研究科邦楽専攻修了/第一回国際尺八コンクール本選出場。/正派音楽院別科卒業/NHK邦楽オーディション合格/茨城県教育研究センターにて指導、文化庁委託・伝統文化こども教室助手/文化庁「文化芸術による子供の育成事業」講師/三曲新進演奏家研修支援「次世代の文化を創造する新進芸術家育成事業」修了生/都山流尺八会会員、茨城県支部、東京芸術大学同声会会員、日本三曲協会会員/いばらき文化振興財団登録アーティスト/「樋口 景・尺八スクール」運営/景山会主催



淵上 ラファエル 広志 RAFAEL HIROSHI FUCHIGAMI

ブラジル出身/カンピナス州立大学音楽学部でフルートを専攻した後、尺八に転向し、同大学大学院で修士号を取得/2013年、São Paulo Research Foundationのスカラシップにて、日本に約半年間の留学をした/2015年には、日本財団より5年間の奨学金支給を受け、再来日/尺八を柿塚春、菅原久仁義の両氏に師事し、横山勝也師の古典本曲及び琴古流尺八を習得/2020年、東京音楽大学大学院博士後期課程にて尺八の研究で博士号を取得/現在、付属民族音楽研究所特任研究員、日本音楽集団団員、JSPN会員、天吹同好会会員



古屋 輝夫 TERUO FURUYA

1949年大阪に生れ横須賀育ち/20歳から42年間横山勝也氏に師事/東京学芸大学数学科卒業/NHK邦楽技能者育成会16期卒業/NHK邦楽オーディション合格/国内外のリサイタル、招待演奏、セミナー多数/2013年以降の毎春のバリエーションのコンサートと講習会は現在も継続中(コロナ期間はオンライン)/ほぼ4年毎に開催されてきた国際尺八フェスティバル(岡山、コロラド、東京、ニューヨーク、シドニー、京都、ロンドン)を演奏・企画でサポート/古典本曲の演奏・研究・作譜、また「尺八に「謳う」ための理解と技術」、は広く認められている/既刊CD/「尺八秘奏」[箏絃秘抄]「浮雲」[産安]「瀧落」[夢MODAN]「幻月詩」[風動]「うた尽し」[聲こえ]、現在の所属/国際尺八研修館主任教師、NHK文化センター講師、いわき竹心会顧問、米子市虚空の会主宰、東京竹心会主宰、完絃社主宰



本間 豊堂 TOYOTAKA HONMA

1975年5月8日、東京生まれ/幼少より茶道、箏曲に親しみながら育つ/中央大学「竹桐会」で琴古流尺八を加藤秀和に、生田流箏曲を芦垣美穂に習う/大学卒業後、古典尺八を横山勝也に師事/現在、東京都東大和市在住。演奏・ライブ活動、尺八教室、学校公演を中心に幅広く活躍する/「竹心会」(横山勝也門下)所属/邦楽創造集団「オーラ」、和のオーケストラ「むつのを」、ピアノ・尺八・コントラバス・唄り物による「峯ひろみとマジック・キャラバン」メンバー/日本三曲協会、西東京三曲の会、小平市三曲協会会員



松本 宏平 KOHEI MATSUMOTO

大阪府出身、京都大学文学部・NHK邦楽技能者育成会53期卒業/琴古流尺八・古典本曲(横山勝也伝)及び尺八奏法の全般を石川利光に師事/根笹派錦風流古典本曲(神如道伝)を神令に学ぶ/2005年 全国邦楽コンクールにおいて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞、同年 イタリア・トスカーナ「ブッチーニフェスティバル」へ招聘されゲストコンサート/2011年より古典本曲のみにコンサートシリーズ「古典本曲の現在」を企画・主宰/東京を拠点に名もなき虚無僧たちの残した遺産「古典本曲」を軸としながら、ジャンルにとられないボーダレスな活動を続け、様々なアーティストとの共演やラジオやテレビの録音・放送も多数行っている/松本宏平尺八教室主宰・財団法人松原市文化情報振興財団主催「尺八教室」講師・首都大学東京非常勤講師・JEUIGIAミュージックサロン講師・(公社)日本三曲協会会員



山口 連山 RENZAN YAMAGUCHI

高橋欽山、初代石垣征山に師事/1988・94年NHK邦楽オーディション合格/1993年都山流本曲コンクール銅賞受賞/2003年 第18回国民文化祭やまた2003の「邦楽の祭典」において委嘱初演(和楽器群によるランドスケープ)(佐藤敏彦・三善晃作曲、山形県三曲協会委嘱)の邦楽器用楽譜の作成と演奏指導/2006年「山口連山尺八サロンコンサート」を開始、これまで17回開催/2014年「SMAP×SMAP(フジテレビ)」の「S-Live」に出演/都山流尺八会大師範/邦楽音心会会員、日本三曲協会会員、「尺八碧心塾」メンバー/NHK邦楽技能者育成会32期卒、山形大学工学部卒業/山形県上市市出身



山崎 北山 HOKUZAN YAMAZAKI

1960年生まれ/都山流尺八を二代山崎北山(父)と二代池田静山に、古典本曲を磯玄定(博多一朝軒)に師事/1991年、北九州市民文化奨励賞受賞/2001年以降、津軽三味線「吉田兄弟」の尺八を担当、全国ツアーや海外公演、国内外でのレコーディング等に参加/都山流尺八本曲コンクール全国大会優勝2回(2005・07年)、いずれも文部科学大臣賞、金賞、宗家杯、産経新聞社杯等を受賞/2006年、北九州市民文化奨励賞受賞/2020年、三代山崎北山を襲名/現在、都山流竹琳軒大師範、都山流講師・検定員、都山流尺八会終身会員/竹空社主宰、日本音楽家ユニオン会員、朝日カルチャーセンター北九州講師/北九州市在住



一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク [JSPN]

【顧問】 川瀬 順輔

【特別会員】 研究者/作曲家/制作者/有識者 ※50音順/15名

愛澤 伯友 泉 武夫 神田 可遊 黒河内 茂 小菅 大徹 志村 哲 高橋 久美子 田中 隆文 谷垣内 和子 長尾 敬 野川 美穂子 藤本草
前田 智子 村治 学 森重 行敏

【正会員】 演奏家 ※50音順/79名

饗庭 凱山 青木 琳道 芦垣 泉盟 阿部 大輔 イオ バヴェル 石川 利光(監事) 石垣 征山 石倉 光山 井本 蝶山 岩田 卓也 大賀 悠司 大河内 淳矢
大山 貴善(理事) 岡田 道明 小濱 明人(理事/副代表) 風間 禅寿 加藤 奏山 金子 朋沐枝 神永 大輔 川崎 貴久 川俣 夜山 川村 葵山(理事)
川村 泰山 菊地 河山 鯨岡 徹 國見 昌史 倉橋 容堂 小林 純 小湊 昭尚 酒井 帥山 阪口 夕山 坂田 梁山 佐藤 将山 設楽 瞬山 柴 香山
白鳥 良章 菅原 久仁義(理事/副代表) 関 一郎 善養寺 恵介(理事) 素川 欣也 瀧北 榮山 竹井 誠 武田 旺山 田嶋 謙一(理事) 田中 康盟 田中 黎山
田辺 恵山 田辺 頌山(理事) 田辺 洌山(理事/事務局) 谷 保範 田野村 聡(理事) 津上 弘道 徳丸 十盟(監事) 友常 毘山 中島 孔山 難波 竹山
野村 云山 野村 峰山(理事/代表) 長谷川 将山(理事) 原郷 界山 樋口 景山 藤田 天山 藤原 道山 淵上 ラファエル 広志 古屋 輝夫 本間 豊堂
眞玉 和司 松本 宏平(理事) 見澤 太基 水野 香盟 三塚 幸彦 三橋 貴風 元永 拓 森田 柁山 山口 連山 山崎 北山 吉越 瑛山 米澤 浩 米谷 和修

第5回定期公演スタッフ ※五十音順

大山貴善 小濱明人 菅原久仁義 善養寺恵介 田辺洌山 田野村聡 徳丸十盟 野村峰山 長谷川将山 松本宏平 吉越瑛山

舞台監督 芦垣 泉盟

解説 田中隆文(邦楽ジャーナル編集長/特別会員)

指導 田野村聡(作曲/正会員)

デザイン 澤本 捨史

舞台 矢野守彦(おことの店矢野) 進藤悟(喜久屋楽器店) 関屋宗真

撮影/編集 風間 禅寿

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN) インフォメーション

尺八サロンコンサートvol.7

2024年12/10(火)
ティアラこうとう小ホール
※企画検討中

尺八奏法講座

一プロから学ぼう尺八奏法一

◆第13回 2025年2月
※日程・時間/講師/テーマ調整中

JSPNサポーター(賛助会員)募集

JSPN は新たな尺八音楽発信の源として 2018 年に設立された、国内唯一のプロ尺八演奏家団体です。国内外での活発な尺八音楽の情報発信、そして豊富な経験を元に柔軟な発想や演奏力でもって新たな提案を行っていくために、当団体「サポーター(賛助会員)」への御協力をお願い申し上げます。

会員	年会費	特典
個人サポーター	¥2,000以上 (一口)	・主催イベント(配信含む)の割引 ・販売物の割引・特典・優先販売
法人/団体サポーター	¥20,000以上 (一口)	・全ての主催イベント(配信含む)へご招待 ・販売物の贈呈 ・ホームページや広報物でのご芳名 (代表者/連絡先)の掲載 (※非掲載も可)
U25サポーター (25歳以下限定)	¥3,000	・全ての主催イベント(配信含む)へご招待 ・販売物の割引・特典・優先販売

※詳しくはホームページをご覧ください

法人/団体サポーター ※五十音順

一城銘尺八 小林一城
〒564-0073 吹田市山手町2-16-38
06-6389-2033
ichijou@pop06.odn.ne.jp

精華銘尺八 北原郁也・北原宏樹
〒604-0002 京都市中京区室町通夷川上る鏡屋町36番地
075-231-2670
info@k-seikado.com
https://k-seikado.com/

澤山銘尺八 尾崎澤山
〒164-0002 東京都中野区上高田2丁目57-3
03-3387-5679
taku108koubou@sunny.ocn.ne.jp

竹勇銘尺八工房 岡寺竹勇
〒745-0066 山口県周南市岡田町1-15
0834-21-7444
info@chikuyu.com
http://www.chikuyu.com/

萌山銘尺八 村田萌山
〒622-0056 京都府南丹市園部町埴生岡花 87
075-231-2670/

容山銘尺八 引地容山
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-5-3
03-3980-1741
info@yozan-hikichi.co.jp
https://www.yozan-hikichi.co.jp/

